

<第 4255 回>

目的地：金北山（佐渡）

担当者：谷口

実施日：2022 年 5 月 26 日（木）～5 月 29 日（日）

形式：山荘泊山行

費用：¥60,000.-

参加者：9 名

行程：

5/26 天気：曇りのち雨

大阪梅田（ウィラーバスターミナル）（22：00）⇒京都駅八条口 G2（23：20）⇒

5/27 天気：雨のち晴れ

新潟駅（8：10）バス（8：25）⇒（8：40）新潟港（9：20）⇒（11：50）両津港⇒大野亀⇒両津港⇒（観光タクシー：12：00）⇒大野亀⇒（15：00）アオネバ登山口（15：15）⇒落合（15：40）⇒ユブ（16：00）⇒アオネバ十字路（16：40）⇒（17：30）ドンデン山荘【泊】

5/28 天気：曇りのち晴れ

ドンデン山荘（5：45）⇒アオネバ十字路（6：15）⇒マトネ（6：55）⇒石花越分岐点（7：30）⇒小股沢コル（7：35）⇒ツンブリ平（7：50）⇒小股沢コル（8：20）⇒石花越分岐点（8：35）⇒マトネ（9：00）⇒アオネバ十字路（9：40）⇒（10：05）ドンデン山荘（10：30）⇒（タクシー）⇒両津港（レンタカー）⇒佐渡金山⇒北沢浮遊選鉱場跡⇒佐渡版画村美術館⇒佐渡リゾートホテル吾妻（入浴）⇒Hostel Perch【泊】

5/29 天気：晴れ

Hostel Perch⇒（レンタカー）⇒トキの森公園⇒小木港（11：20）⇒（12：35）直江津港（12：50）⇒（バス）⇒（13：22）上越妙高駅：【新幹線はくたか 563】（14：16）⇒（15：19）金沢【サンダーバード 34 号】（16：00）⇒（18：39）大阪駅

感想：

泊まり山行へ行くと次の行先は～と大抵イメージできるのですが、今回はなぜかまたすぐにも佐渡へ行きたいなと今もって佐渡を追いかけいています。フェリーに乗って雨上がりに姿を現した佐渡島にワクワクしたこと、島から眺めたきらきら光る透き通った海や大きな空、そこら中に広がる田植えの終えた水の張った田んぼ、山行中に感じた心地いい風や匂いなどが恋しく感じます。

ドンデン山荘から金北山までの縦走ができていたらもっと違う気持ちだったのだろうか？ 山歩きへはいつ行けるかわからないけれど、今度はわずかな山歩きで見かけた太い幹の杉の山道も歩いてみたい、縦走路がお花でいっぱい埋め尽くすような季節に歩いてみたい、秋に赤く色づくナナカマドの木に小さな白い花をたくさん咲かせていたので、きっと秋もきれいだろうな～とか色々想像しています。

尾瀬でいうニッコウキスゲに似たお花でカンゾウという黄色いお花が島のあちこちに咲いていました。中でも一番規模が大きいのが大野亀だそうです。人が賑わう季節からは少しずれていたせいか、閑散とした大野亀を思いっきり独占して楽しむことができました。大野亀のすごいところは、山ではなく大きな岩であることやカンゾウのお花畑もさることながら囲む海の青さや海岸線の景観も見事でした。きっと時間を変えて見える景色にはそれぞれ違った美しさがあるのだと思います。

さらに山のお話からはずれてしまいますが、世界遺産に推薦されている佐渡金山へ行ってきました。鉱山採掘のために真っ暗な坑道で労働をする昔の人たちを想像することは私には難しいですが、たくさんの方の労働者が犠牲になったんだらうなと過去の歴史を間近で感じることができました。

佐渡の相川に佐渡版画村美術館という場所があります。2 日目悪天候で早々に登山を撤退し、どうしても行きたかったこの場所へ皆さんに我儘を聞いていただけて行くことができました。佐渡の下調べをしている時に知った版画作家さんが偶然にもこの時期に作品展をされており、その方が紹介されていた 1 冊の本（注記参照）が行く前からとても気になっていて、昨日読み終えたところです。山行中にもあちらこちらに版画が飾られていたので、なんですか？と不思議に思っていたけれど、この本を読むことで佐渡になぜ版画文化が広がったのか、元高校の教師であり版画家でもある高橋信一さん（著者）のを知ることができ、こんな人になりたいな出会いたいと思う素晴らしい内容でした。機会があればぜひ読んでいただきたいです。

最終日、開園と同時にトキの森公園へ行きました。公園の周辺は森に囲まれていて、入口にあるトキのペイントしたポストのある雰囲気、ジブリ映画『トトロ』で雨降りの中メイを背負ったサツキちゃんとトトロが傘をさして並んで待っている所を連想させる場所でした。園内にはトキのペイントをしたかわいい石がたくさん置いてあってほんわかした空間です。昨年長岡でみたトキは真っ白い羽でしたが、今回はちょうどトキの繁殖期間で首周りの羽の色は灰色をしていました。前回と違って間近でトキの観察をすることはできませんでしたが、姿の違うトキを見ることができて嬉しかったです。

たった 2 日間というわずかな滞在中、いつもとは違った島独自ののんびりとした日常を感じることができ

ましたが、まだまだ知りたいことがたくさんあります。年間を通して島の文化や季節や味覚を感じたいですし、島で暮らす人のお話も聞いたり関わってみたいです。そんな日がくればいいなと思っています。

慌ただしい山行でしたが、参加していただいた皆様には山登りに行くはずがなんだか観光に佐渡へ来たようなそんな数日でしたよね。関西から佐渡へ行くとなるとなかなか気が遠くなる場所をご参加いただき、本当にありがとうございました。

(注) 高橋信一『捨てない教育』溪水社. 1984